

まちづくりやボランティアなどに参加している
地域活動の担い手をシリーズで紹介します

私たちのまちは、 私たちできれいに！



アダプトベストを着用して活動します



通学路もきれいになりました

ごみが落ちていない道路や街並みは、とても気持ちがいいものです。「自分たちの住むまちをきれいにしよう」という思いは、地域への愛着へとつながります。

今月は、きれいで住みよいまちづくりを目指す団体が、北区が取り組む「アダプト・プログラム事業」に参加し、活動する様子を紹介します。

美しく快適なまちを目指して 地域で取り組む美化活動

美しいまちへの思い

「一人では難しくても、みんなで活動することで頑張れます。ごみのない美しい空間が北区全体に広がるとうれしいですね」と話すのは、「北区アダプト・プログラム事業」の第一号として活動を始めた「スローライフ・イン・にょよん実行委員会」の小泉詔信委員長。同実行委員会では、以前から地域で清掃活動を行っていました。継続して責任ある活動をしようと、この事業に参加。北区と覚書を交わすと、早速、地域で道路の清掃活動を行いました。

幅広い世代が参加

同実行委員会は、北24条商店街振興組合や北区料飲店協会、幌北・北両連合町内会など、さまざまな団体が構成されています。今回の清掃にも、町内会の役員や白楊小学校の児童など約一二〇人が参加しました。



吉澤北区長(左)と覚書を交わす小泉委員長(右)

「大人も子どもも、まちが一つになって頑張る、すぐきな活動ですね。次回も必ず参加します」と語る地域の方や「毎日通う道をきれいにしました。とても気持ちがいいです」と笑顔で話す小学生。どの参加者の顔にも、自分たちのまちを自分たちできれいにできたという充実感がありました。

行政との役割分担

市民と行政が明確に役割分担し、効果的に美化活動を進めるのが、この事業の特徴です。「事業に参加したことで、活動への責任感が強まりました。区役所か